

熊取町の財政

～平成30年度決算～



総合政策部 財政課



目次

| | |
|-------------------------|----|
| ①「財政」ってなに？ | 1 |
| ②決算の概要 | 2 |
| ③歳入（収入）は？ | 3 |
| ④歳出（支出）は？【目的別】 | 4 |
| ⑤歳出（支出）は？【性質別①】 | 5 |
| 歳出（支出）は？【性質別②】 | 6 |
| ⑥平成30年度に実施した事業 | 7 |
| ⑦借金（町債）は？ | 8 |
| 借金（町債）って必要なの？ | 9 |
| ⑧貯金（基金）は？ | 10 |
| ⑨他団体との比較【歳入】 | 11 |
| 他団体との比較【歳出】 | 12 |
| 他団体との比較【地方債・基金】 | 13 |
| ⑩財政状況は大丈夫？ | 14 |
| ⑪第3次行財政構造改革プラン【目標】 | 15 |
| 第3次行財政構造改革プラン【平成30年度実績】 | 16 |
| ⑫公共施設等の老朽化対策 | 17 |
| ⑬課題と取り組み（まとめ） | 18 |



①「財政」ってなに？

「財政」とは、わかりやすく言うと「**お金のやりくり（収支）**」のことです。
各家庭では、お給料をどのようにやりくりするかを考えていると思いますが、町でも皆さまに納めていただく税金などをどう使っていくか、必要性や優先順位を考えながらやりくりをしています。

行政では、この「お金のやりくり（収支）」を、原則、年度ごとにおこなっています。

① 予算

1年間の収入と支出を見積もる「**お金のやりくり（収支）**」の計画です。

② 執行

予算を**執行**する。（行政サービスの提供）

③ 決算

お金がどのくらい集まり、どのように使われたかの**結果**です。

この流れを「**財政**」っていうんだね。



② 決算の概要

平成30年度の決算は、
歳入（収入）は、202億118万1千円（前年対比 +75億8,770万6千円）
歳出（支出）は、199億8,228万2千円です。（前年対比 +74億6,277万2千円）

形式収支（歳入－歳出）は2億1,889万9千円となり、翌年度に繰り越す事業（平成30年度中に完了しなかった事業）に使うための財源1億2,275万5千円を差し引いた**「実質収支」**が9,614万4千円の黒字となっています。

⇒平成24年度から6年ぶりに財源不足を補うための基金繰入を必要とすることなく実質収支が黒字となりました。



「実質収支」ってなに？

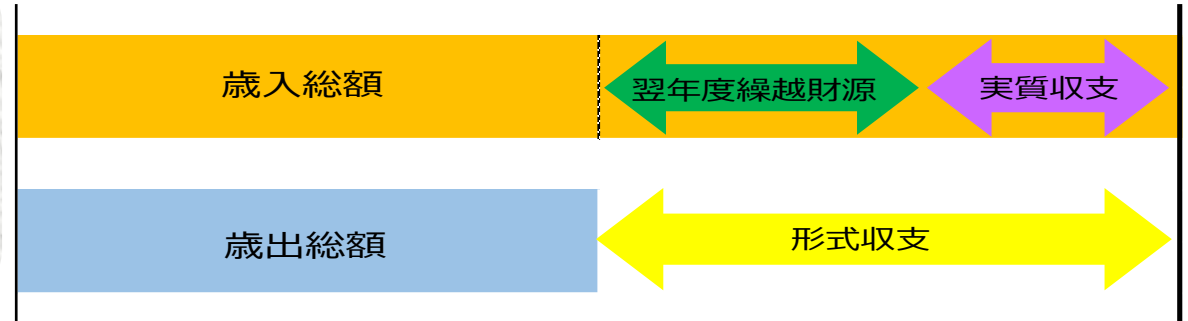


その年度の決算で、収支が赤字か黒字かを示す指標です。

実質収支の黒字額は翌年度の歳入として繰り越され、事業の実施や財政調整基金の積立などにあてられます。

※基金（貯金）については10ページで説明します。

● 実質収支のイメージ（収支が黒字の場合）



歳入面

【増加要因】

- ふるさと応援寄附金が大幅増加
- 地方交付税と臨時財政対策債が増加

【減少要因】

- 固定資産税における評価替え等の影響による減少
- 地方消費税交付金など各税の交付金が減少

歳出面

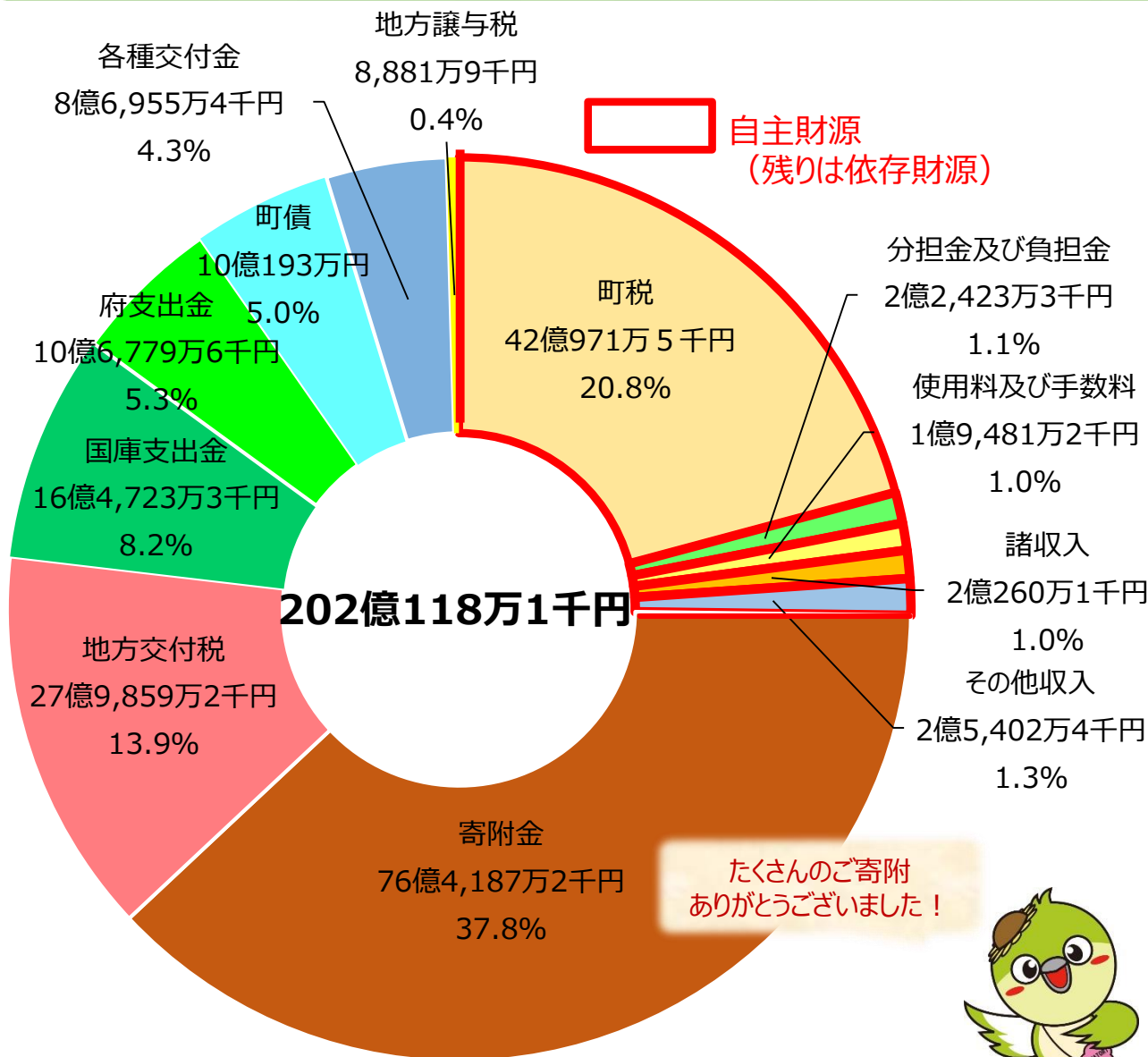
【増加要因】

- ふるさと応援寄附金が増加したことに伴う積立金や補助費等（返礼品などの経費）が大幅増加
- 平成30年7月豪雨、台風21号などの災害に伴う投資的事業が増加

【減少要因】

- 臨時福祉給付金などが皆減
- 町債の償還（借金の返済）が進んだことなどにより公債費が減少

③歳入（収入）は？



※構成比は単純四捨五入であるため、合計が100%になっていません。



平成30年度の歳入総額は202億118万1千円となり、前年度（126億1,347万5千円）と比べて75億8,770万6千円増加しました。

⇒ふるさと納税による寄附金が大幅に増加したことが主な要因

歳入には、町税をはじめ、国や大阪府からの補助金、地方交付税、ふるさと納税による寄附金などがあります。

町に入るお金は大きく分けて「自主財源」と「依存財源」があり、「自主財源」が多いほど、自主的で安定性のある行政活動が可能になります。

町の自主財源は全体の4分の1程度となっており、自主財源のさらなる確保に向けた取り組みをすすめる必要があります。 ⚠課題

【自主財源・依存財源】

- 自主財源：町が自主的に集めることができるお金
- 依存財源：国や大阪府からのお金など町が自主的に集めることができないお金

【地方交付税】

- 地方自治体ごとの税収格差を調整するために、国から配分されるお金

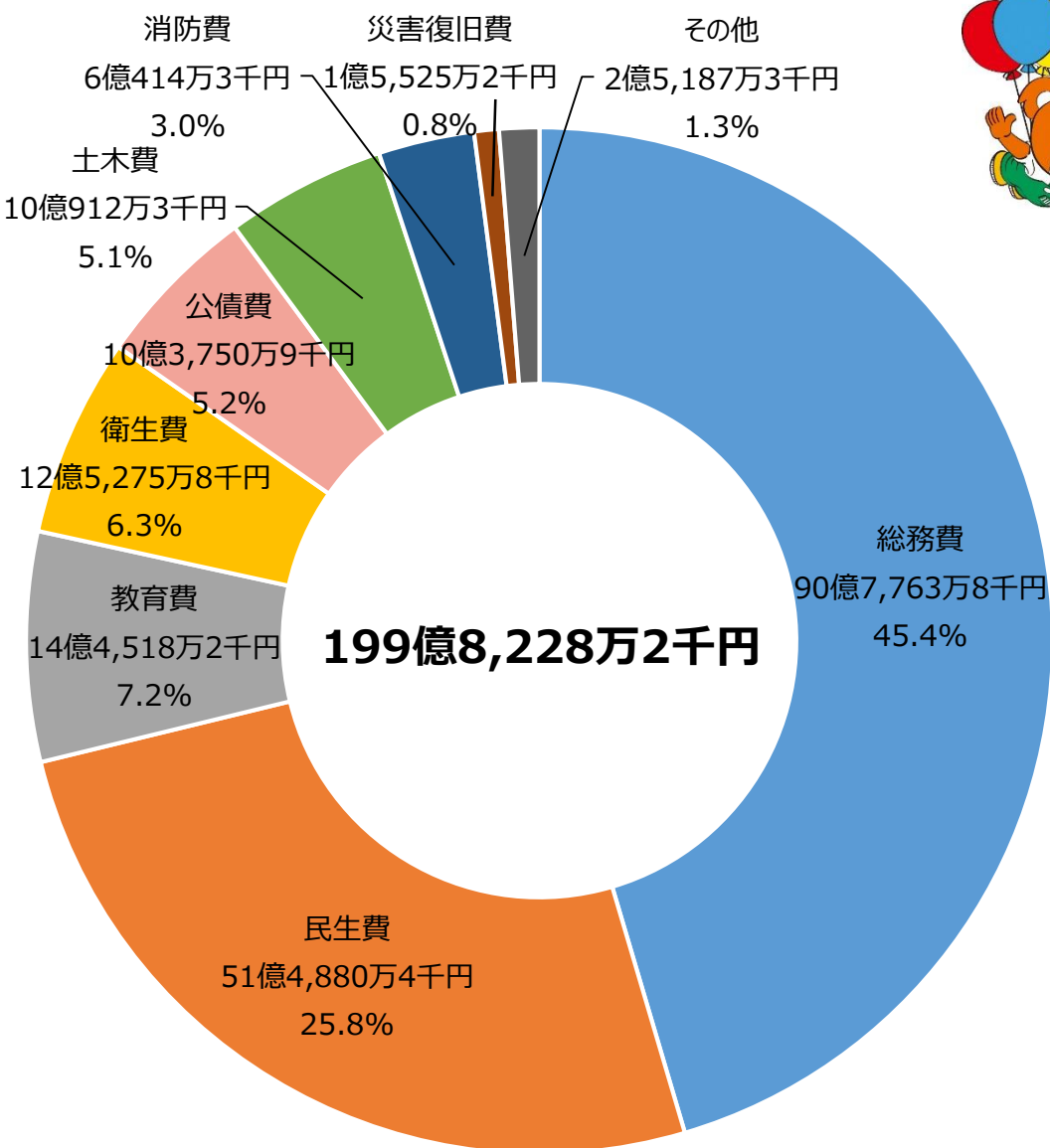


④歳出（支出）は？【目的別】



◎歳出「目的別」とは予算をどんな目的で使ったかということだよ。

平成30年度の歳出総額は199億8,228万2千円となり、前年度（125億1,951万円）と比べて74億6,277万2千円増加しました。



- 「**総務費**」：戸籍関係業務、税務関係、自治振興などのためにふるさと納税に係る経費が増加したため、前年度と比べて72億4,591万5千円増加しました。
- 「**民生費**」：高齢者や障害をもつ方、保育などのために子どもや高齢者や障がい者などの福祉サービスが全体の4分の1を占めています。高齢化による社会保障関連経費の伸びなどにより今後も増えていくことが想定されます。
- 「**教育費**」：学校教育や文化、スポーツ振興などのために小学校空調設備設置や認定こども園施設の整備などにより、前年度と比べて2億2,233万8千円増加しました。
- 「**災害復旧費**」：災害復旧にかかる工事などのために平成30年7月豪雨、台風21号などの災害に伴い増加しました。



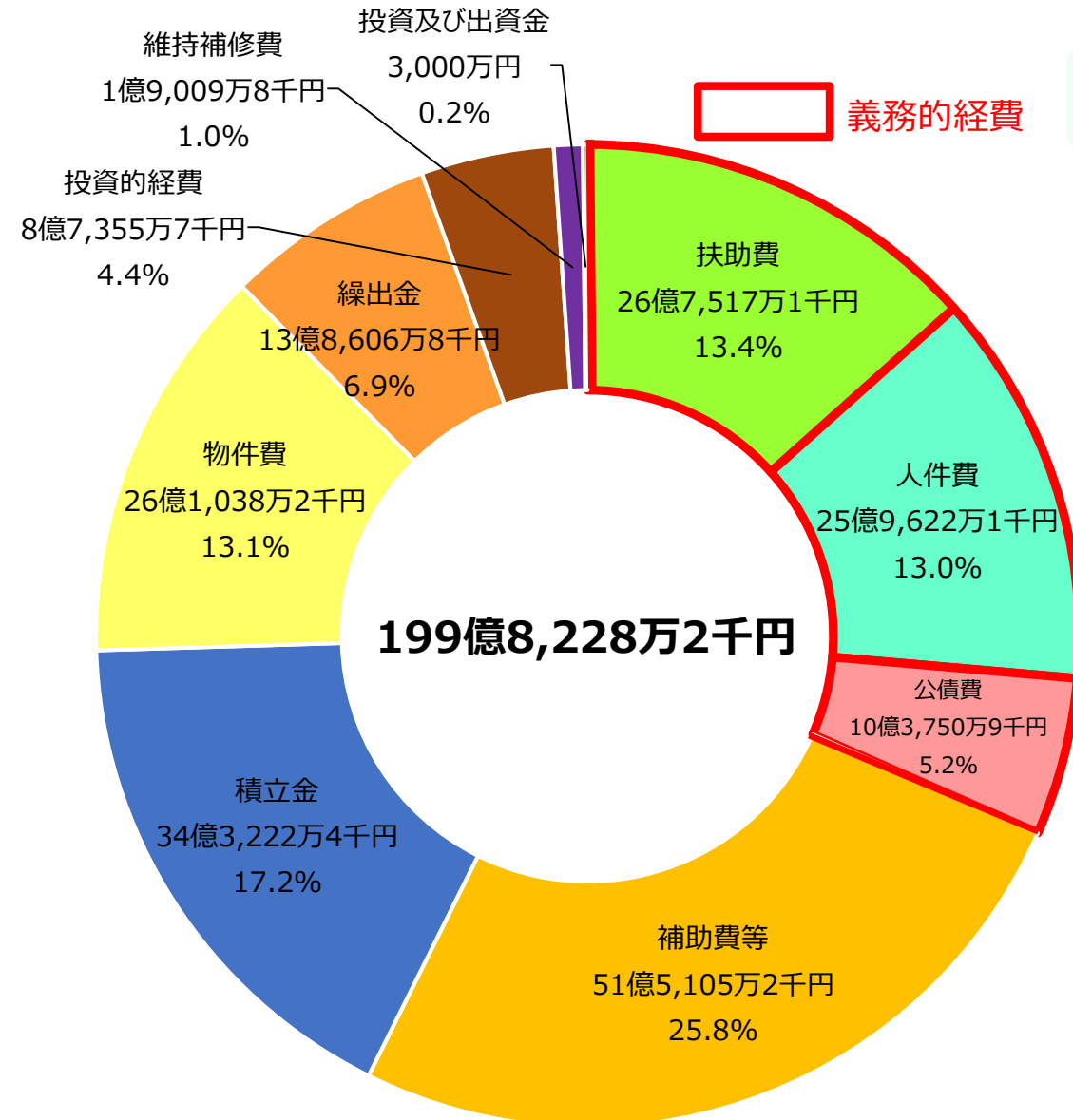
- 「**衛生費**」：町民の健康を守ること、ごみの処理などのために
- 「**公債費**」：各施設建設時などに借入れた町債の返済のために
- 「**土木費**」：道路や公園などの建設・管理などのために
- 「**消防費**」：消防や防災などの災害対策のために
- 「**その他**」：農商工業振興、議会運営などのために

※構成比は単純四捨五入であるため、合計が100%になっていません。

⑤歳出（支出）は？【性質別①】



歳出「**性質別**」とはどんな性質の予算をどれくらい使ったかということだよ。



用語の解説

| | |
|---------|--|
| 扶助費 | 児童・高齢者・障がい者などに対しておこなう支援に要する経費 |
| 人件費 | 職員の給与など |
| 公債費 | 資金調達のために借り入れた町債を返済する経費 |
| 補助費等 | 各種団体に対する助成金や負担金 |
| 積立金 | 財政運営を計画的におこなうため、備えとして積立てる経費 |
| 物件費 | 人件費、維持補修費、扶助費、補助費等以外の、地方公共団体が支出する消費的性質をもつ経費の総称 |
| 繰出金 | 一般会計と特別会計などの会計間で当該会計から他会計に支出される経費 |
| 投資的経費 | 道路、学校、庁舎など施設の整備、建設など施設等がストックとして将来に残るものに支出される経費 |
| 維持補修費 | 公共用施設等を補修するなどし、その効用を維持するための経費 |
| 投資及び出資金 | (熊取町では) 水道事業への出資にかかる経費 |

義務的経費

支出が義務付けられている経費です。⇒人件費、扶助費、公債費がこれにあたります。

※構成比は単純四捨五入であるため、合計が100%になっていません。

歳出（支出）は？【性質別②】

たしか、平成30年度の歳出総額は昨年と比べて約75億円増加したんだよね！？なんでなんだろう？



主な増減要因

【扶助費】

- 臨時福祉給付金の皆減などの影響により約4,200万円減少

【公債費】

- 償還終了や据置期間の設定により約4,400万円減少

【人件費】

- 退職手当の増加などにより約1,000万円増加

【物件費や補助費等】

- ふるさと納税に係る経費の増加などにより約46億円増加

【積立金】

- ふるさと応援寄附金の増加により約32億円増加

【投資的経費】

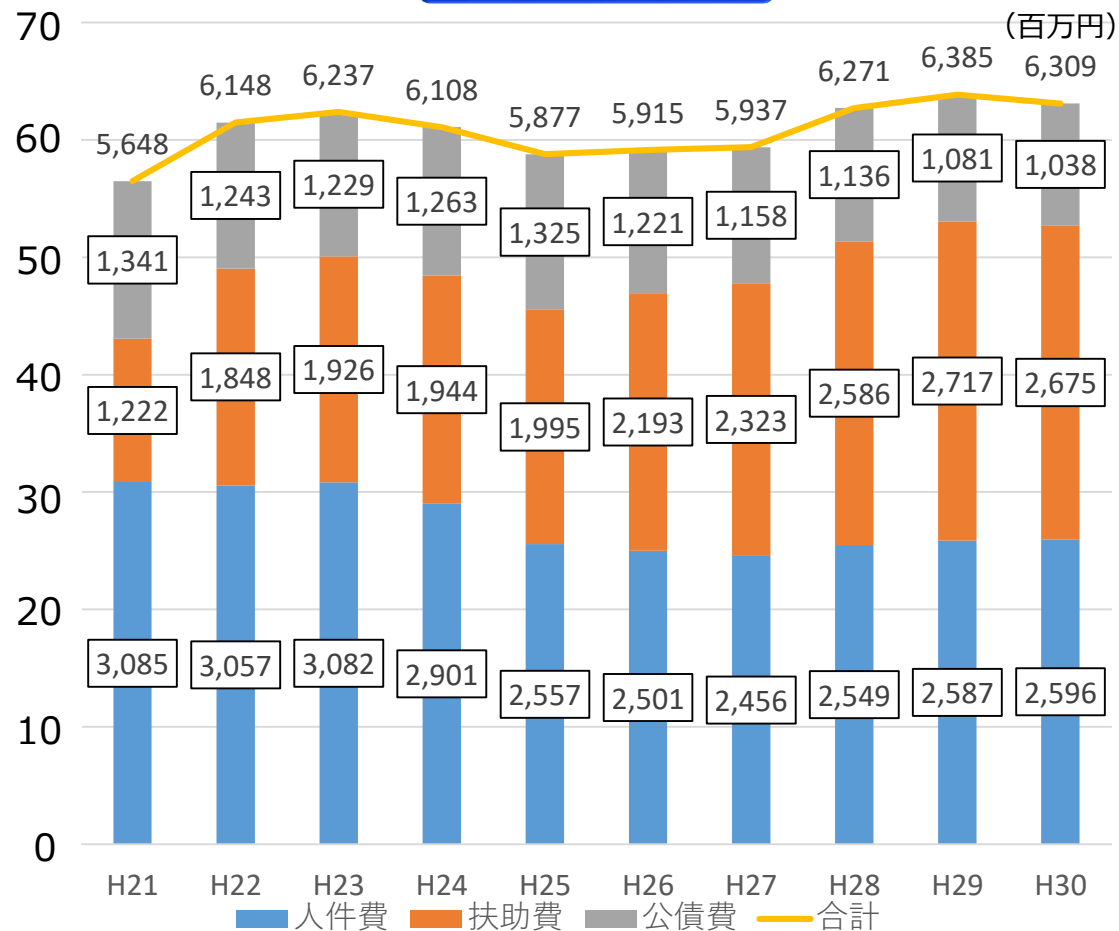
- 小学校空調設備設置事業実施により約2億6,000万円増加
- 認定こども園施設整備事業実施により約5,600万円増加

POINT

少子高齢化に伴い高齢者、障がい者に対する扶助費が増加していることに加え、子育て支援に係る経費（保育所や子ども医療費助成など）も増加しています。これらの経費は今後さらに増加していくことが想定され、平成30年度決算においては、実質収支が黒字にはなったものの、厳しい財政運営が続きます。

(億円)

義務的経費の推移



10年前と比べ、人件費は下がりましたが、扶助費が倍増しています。義務的経費が増えてくると自由に使えるお金が少なくなってしまいます。

⑥平成30年度に実施した事業

平成30年度に整備した施設などの写真展だよ。このほかにも、たくさんの投資的事業（建設事業）を実施したよ。



全小学校空調設置工事

町内全小学校に空調設備を設置しました。

2億5,700万円



町道小谷穴釜線道路拡幅工事

町道小谷穴釜線の拡幅工事が平成30年度に完了しました。

6,500万円

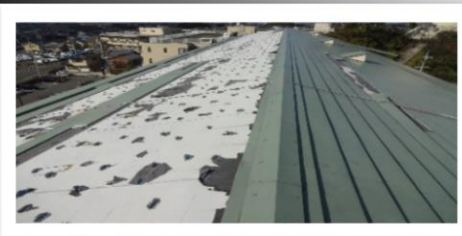


北小学校ブロック塀改修

熊取北小学校のブロック塀を改修しました。（ほか熊取北中学校も実施 290万円）

440万円

平成30年度は台風21号、7月豪雨をはじめ災害の多い一年となりました。



町営住宅災害復旧工事

台風21号により被害を受けた大原住宅の復旧工事を実施しました。

※復旧事業の多くは令和元年度への繰越事業となっています。

1,000万円

【その他平成30年度に実施した事業】💡

- フレンド幼稚園の認定こども園化に係る施設改修補助【5,600万円】
- 中央小学校トイレ洋式化改修工事【2,600万円】
- 和田、大谷池水路改修補助【2,200万円】
- 環境センター設備改修（押込送風機整備）【1,700万円】
- 全国瞬時警報システム（Jアラート）新型受信機更新【220万円】

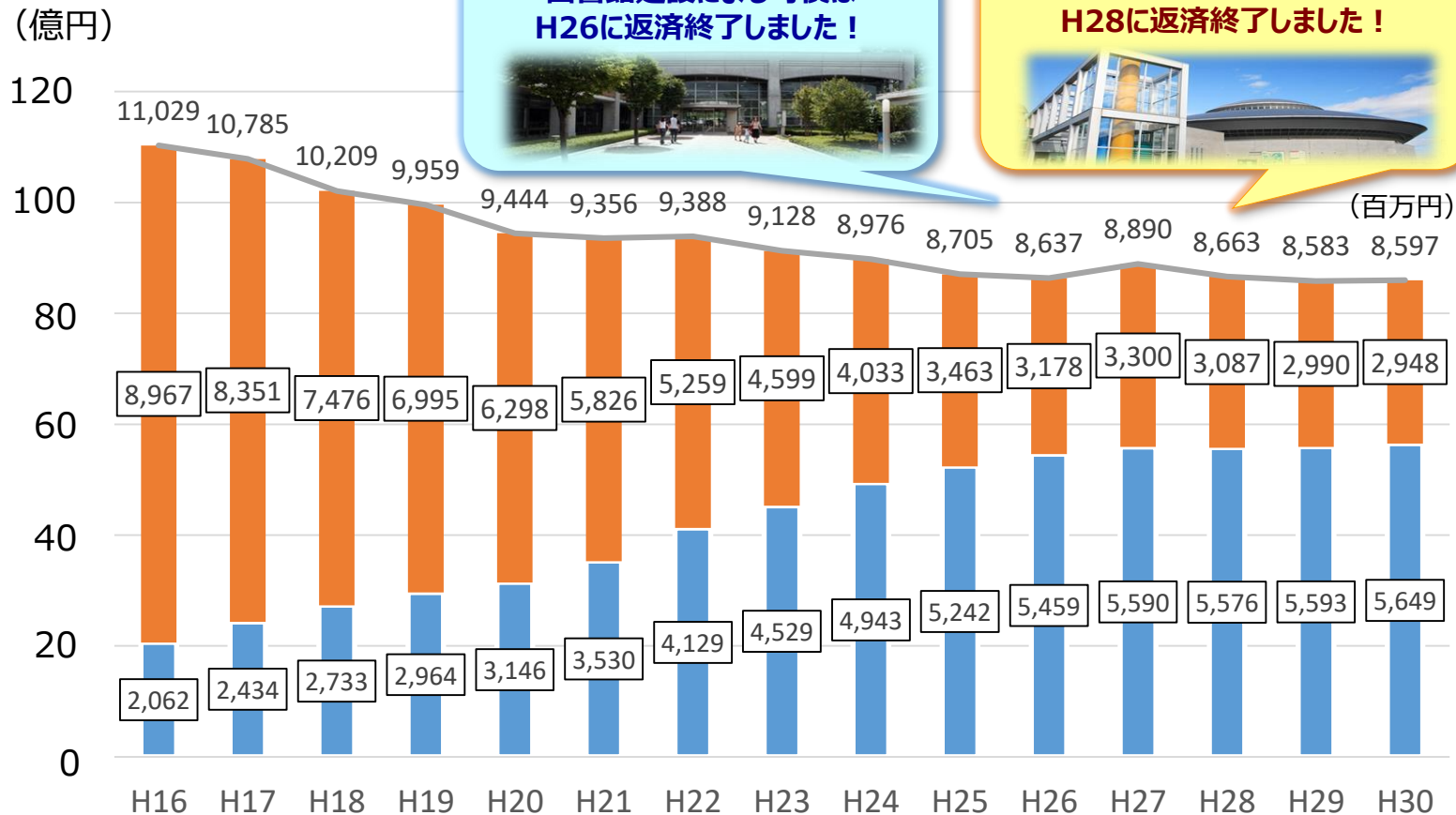
7 借金（町債）は？

町債（借入金）残高【一般会計】

図書館建設による町債は
H26に返済終了しました！



ひまわりドーム建設による町債は
H28に返済終了しました！



臨時財政対策債以外の町債は、公共施設（道路、庁舎等）の建設などに使われているよ。

— 臨時財政対策債 — その他 — 町債残高(合計)

町債残高

一般会計における熊取町の町債残高（借金）は、平成30年度末時点で約86億円あります。

臨時財政対策債（臨財債）以外の町債は、主に公共施設の建設のために発行したもので、過去に図書館やひまわりドームなどの建設で発行した町債の返済（償還）が進んでいることから年々減少しています。

一方で、臨時財政対策債の残高は年々増加しており、平成30年度末では全体の約66%を占めています。

用語の解説



臨時財政対策債（臨財債）

国が地方交付税を交付するにあたり、財源が不足した場合に、その代わりとして地方自治体に地方債を発行（借入）させる制度です。

臨時財政対策債の返済に必要なお金は、後年度に国から全額地方交付税で措置されますので、地方交付税の代わりとなるお金といえます。



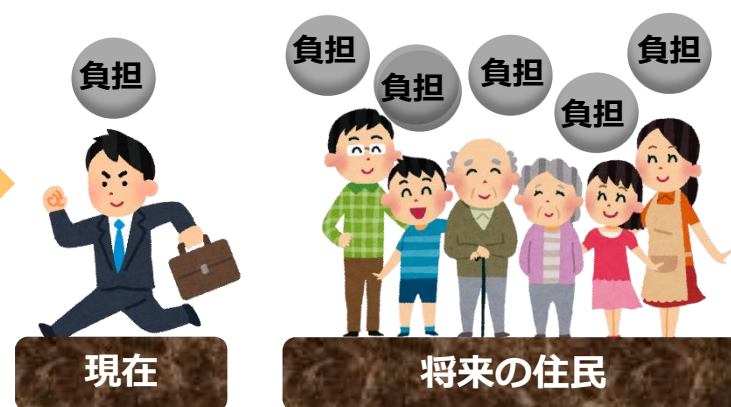
借金（町債）って必要なの？

- ✓ 施設の多くは**長期間にわたって何世代も**の人が利用します。例えば、図書館を建設すると少なくともこの先20年は利用されます。このことは、図書館を建設した効果が20年間持続しているとも言えます。
- ✓ もし、地方債（町債）を活用しなかったら、建設した年度の住民が納めた税金だけで建設費用をまかなうこととなり、**その年度の住民の負担**が大きくなります。また、10年後や20年後の住民は、図書館を利用するだけで全く負担しないことになるので、**世代間で不公平**が生じます。
- ✓ さらに、図書館の建設には**多額の費用**がかかります。しかし、税金など地方債以外の収入は、その年度に建設があるからといって増えるわけではないので、**収入と支出のバランス**がとれなくなってしまいますし、限られた収入の中では、他の事業を圧迫する恐れがあります。
- ✓ そこで、**地方債（町債）**を活用すると、借り入れた資金を長期間にわたって返済することができるため、結果的に建設費用を**各世代で分担**することになります。建設した年度の住民だけでなく、この先、図書館を利用する住民も、**返済する = 建設費用を負担**することになり、利用と負担のバランスをとることができます。

負担が**大きい**



長期間にわたって返済 = 各世代で分担



地方債
の活用

赤字をうめるためではないんだね
住宅ローンのようなものかな

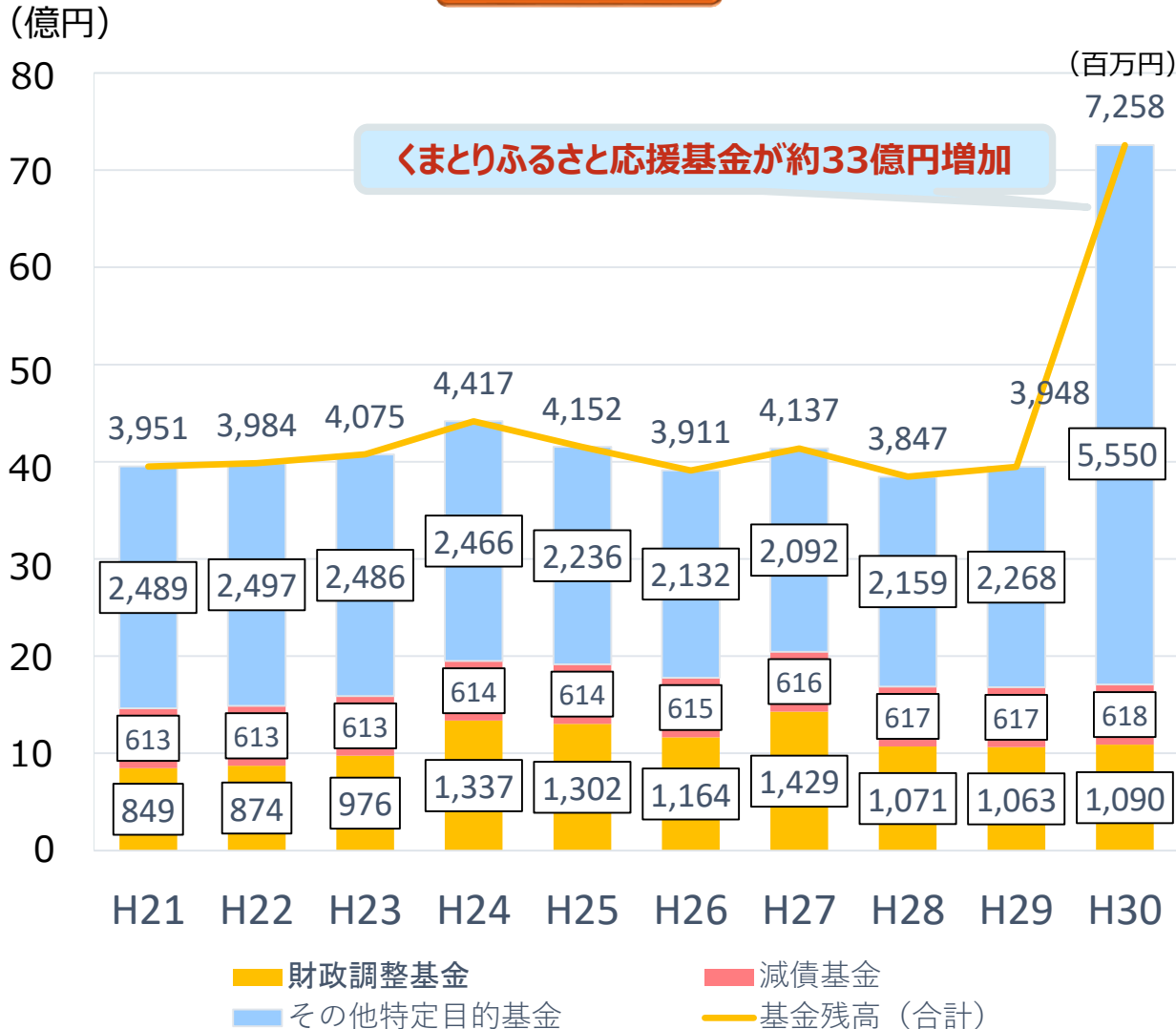


将来にわたって負担を分担するため、
その年度の収入と支出のバランスをとるためなんだね



⑧貯金（基金）は？

基金残高



財政調整基金

財政調整基金 (S48.2.22設置) 10億9,022万1千円
 年度間の財源の不均衡を調整し、計画的な財政運営を行うための基金

減債基金

減債基金 (H元.9.29設置) 6億1,745万4千円
 町債の償還に備えて積立てる基金

その他特定目的基金

公共施設整備基金 (S48.2.22設置) 15億2,916万4千円
 公共施設整備事業を円滑かつ効率的におこなうための基金

地域福祉基金 (H3.3.9設置) 8,477万3千円
 高齢者等の保健福祉の増進を図るための基金

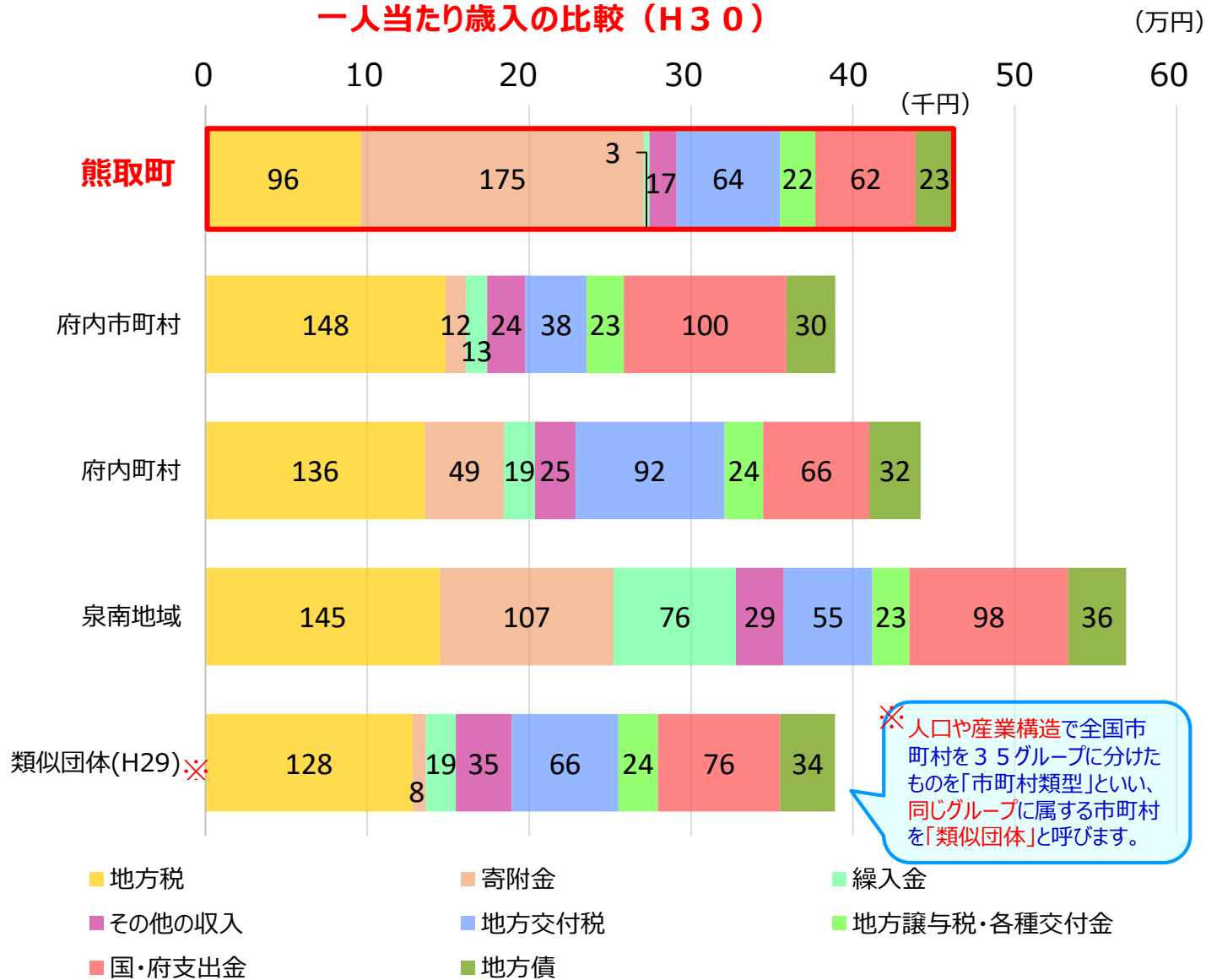
くまとりふるさと応援基金 (H22.10.14設置) 38億4,335万5千円
 定住魅力のあるまちづくりを推進するための基金

産業活性化基金 (H26.4.1設置) 9,258万3千円
 地域産業の活性化をはかるための基金



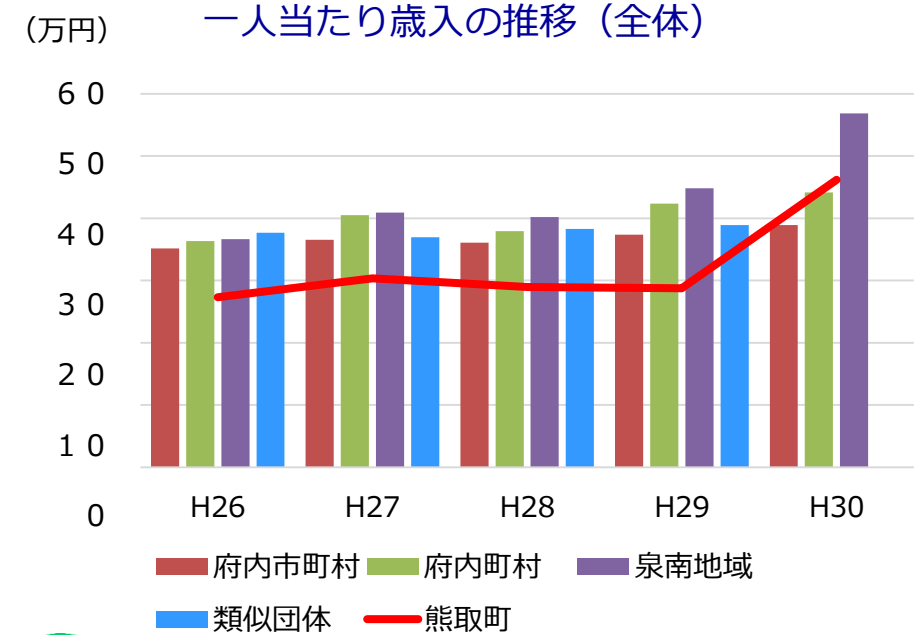
9 他団体との比較【歳入】

一人当たり歳入の比較 (H30)



※人口や産業構造で全国市町村を35グループに分けたものを「市町村類型」といい、同じグループに属する市町村を「類似団体」と呼びます。

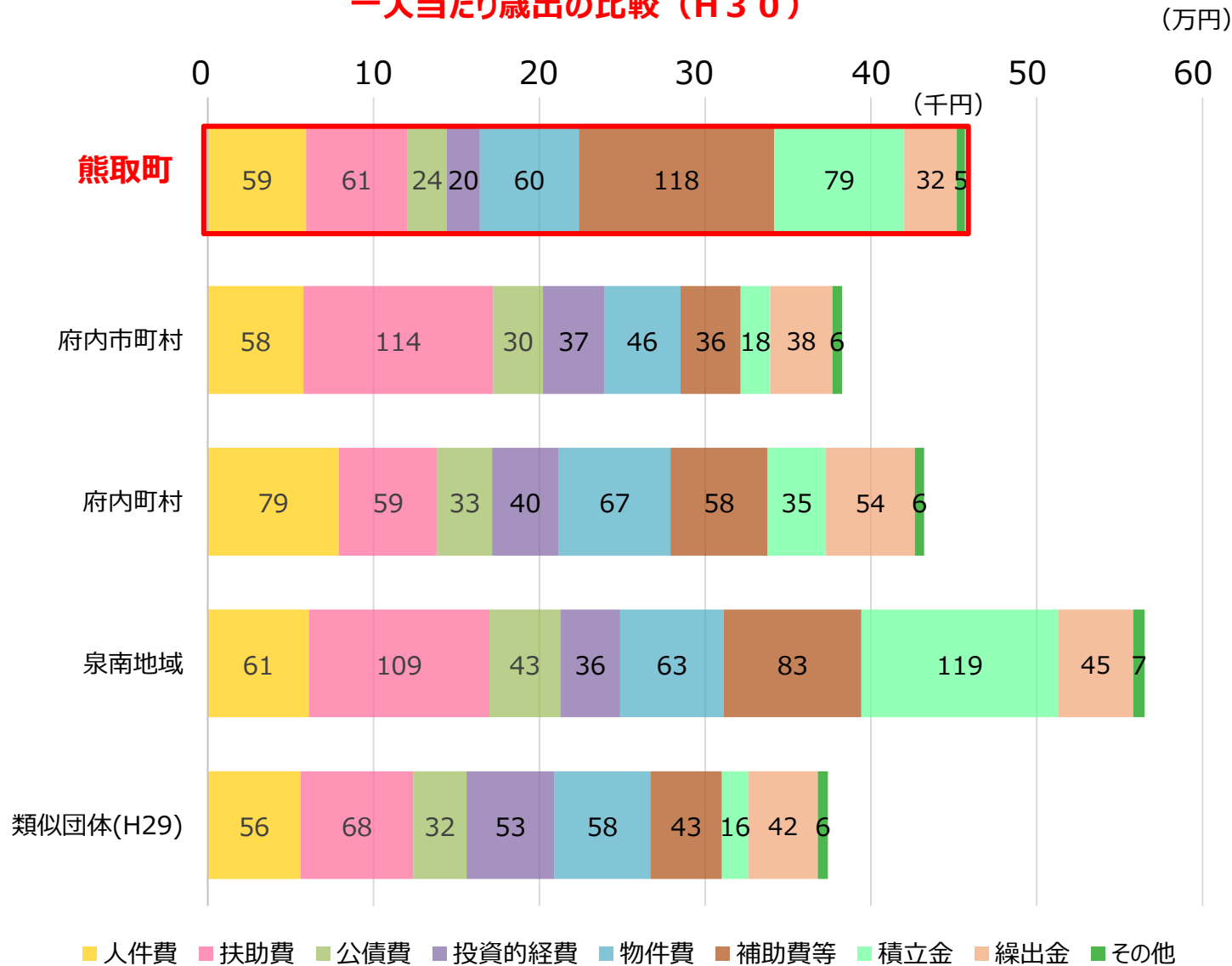
一人当たり歳入の推移 (全体)



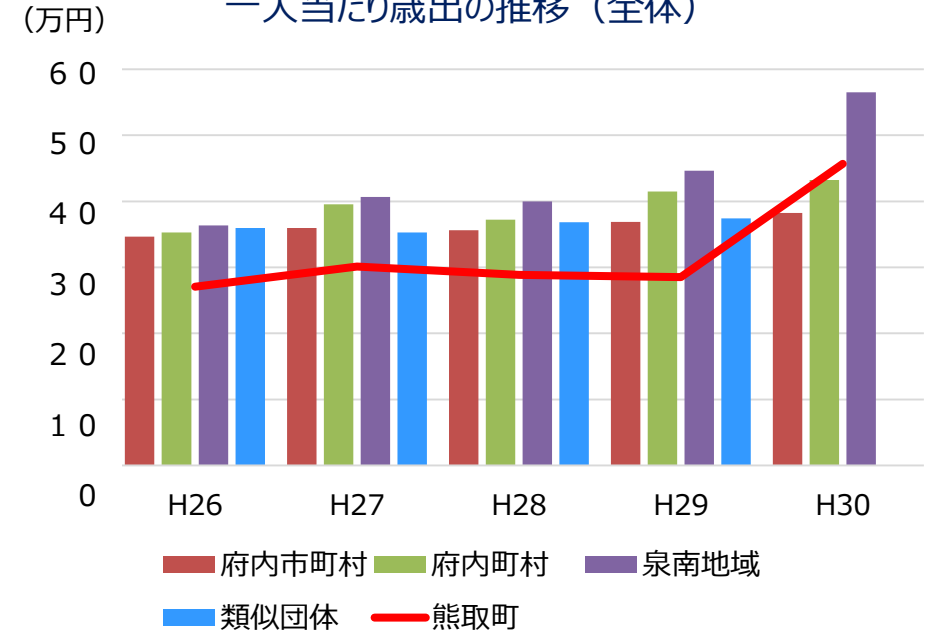
Point ※類似団体についてはH29まで
町税について、個人住民税は府内でも中ほどに位置していますが、固定資産税および法人住民税が比較的下位で位置し、全体として税基盤が弱いため、他団体を下回っています。また今後、生産年齢人口の更なる減少により、町税の大幅な増加は見込めない状況です。
平成30年度については、ふるさと応援寄附金が大幅に増えたことにより、住民一人当たりの寄附金が大きく増加することとなりましたが、今後においても基金繰入れに依存することなく、町税などの自主財源の確保に努めていくことが大切です。

他団体との比較【歳出】

一人当たり歳出の比較 (H30)



一人当たり歳出の推移 (全体)



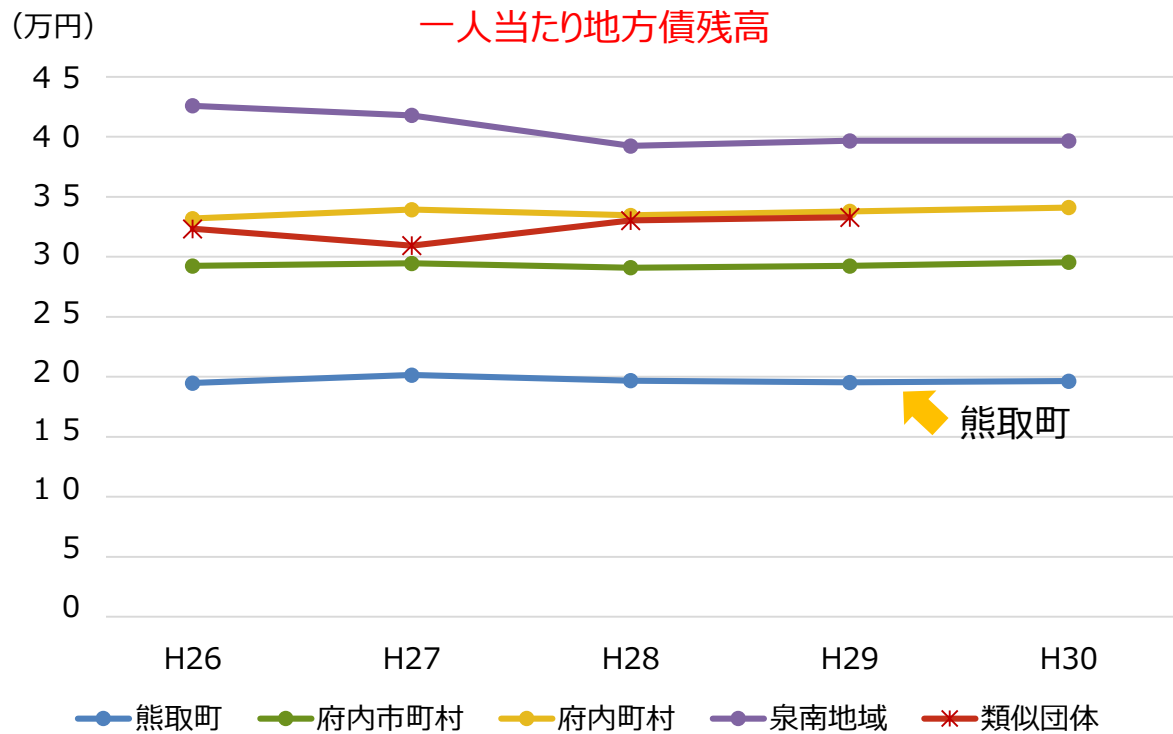
※類似団体についてはH29まで



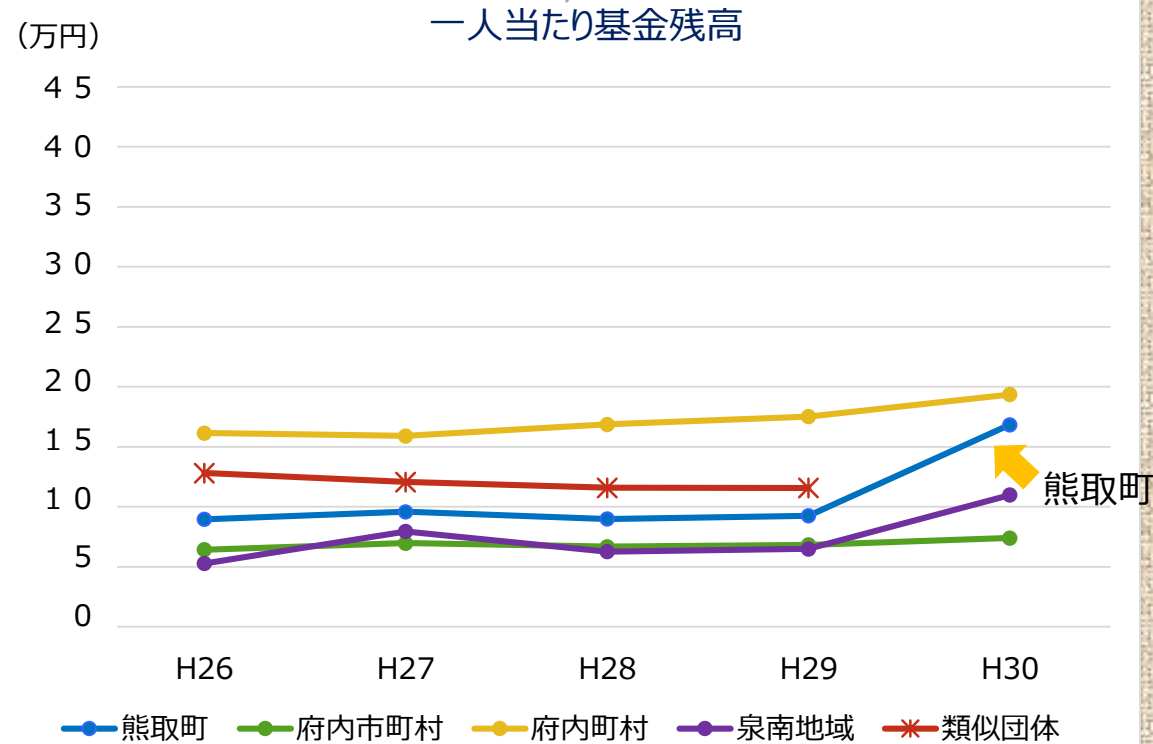
一人当たり歳出の比較では、ふるさと応援寄附金の大幅な増加により、それに伴う補助費等及び積立金が他団体と比べて、大きく増加しました。

また、熊取町では、ごみ処理、し尿処理などの事業を直営で行っており、その人件費及び施設の運営経費や維持補修費が類似団体と比較して高くなる傾向にあります。ここ数年は超過勤務の抑制など、行財政改革による経費削減の効果を生み出しており、類似団体と同程度となっています。

他団体との比較【地方債・基金】



※類似団体についてはH29まで



※類似団体についてはH29まで

地方債残高について、財政措置のあるものに限って借入れをおこなうなど借入額を抑制してきたことで、他団体と比較して、下回っている状況が続いています。熊取町では、過去に整備した施設にかかる町債の返済が進んでいるため、臨時財政対策債を除いた建設事業債は減少傾向となっています。今後においても、実施事業の規模などを十分に確認し、借入額の抑制に努め、将来世代に過度な負担を残さない財政運営をおこなっていきます。

Check!!

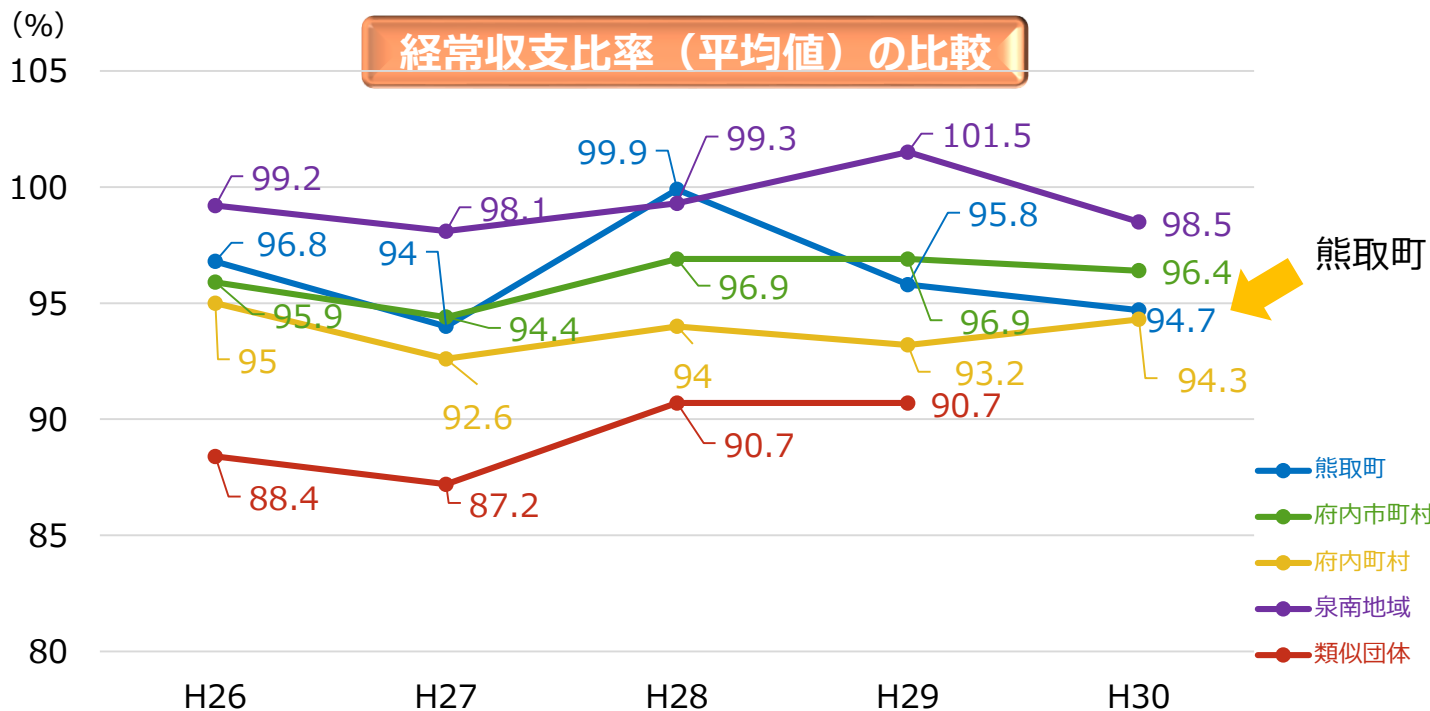


基金残高について、平成26年度から基金を取崩して財源不足分を補っていましたが、平成30年度における、ふるさと応援寄附金の積立てにより、府内市町村と比較して、大きく上回る結果となりました。しかし、少子高齢化に伴う扶助費などが今後も増加していくことが予測されるため、基金繰入れに頼ることなく、基金を減少させないように努めていくことが重要となります。

Check!!



10 財政状況は大丈夫？



経常収支比率ってなに？

地方公共団体の財政の弾力性を判断するための指標です。地方税、普通交付税などを中心とする**経常的に収入される一般財源**（経常一般財源）が人件費、扶助費、公債費等の毎年**経常的に支出される経費**（経常経費）にどのくらい充てられているか示しています。

この比率が**高い**ほど、道路整備などの投資的事業や新しい施策を実施する**余力がなくなる**ことを意味します。

平成30年度は前年度に比べて1.1ポイント良化（94.7%）

これは、普通交付税と臨時財政対策債の増により分母全体が増加したためです。しかし、分子となる経常経費についても増加しており、今後も引き続き**経費削減**に努めていかなければなりません。

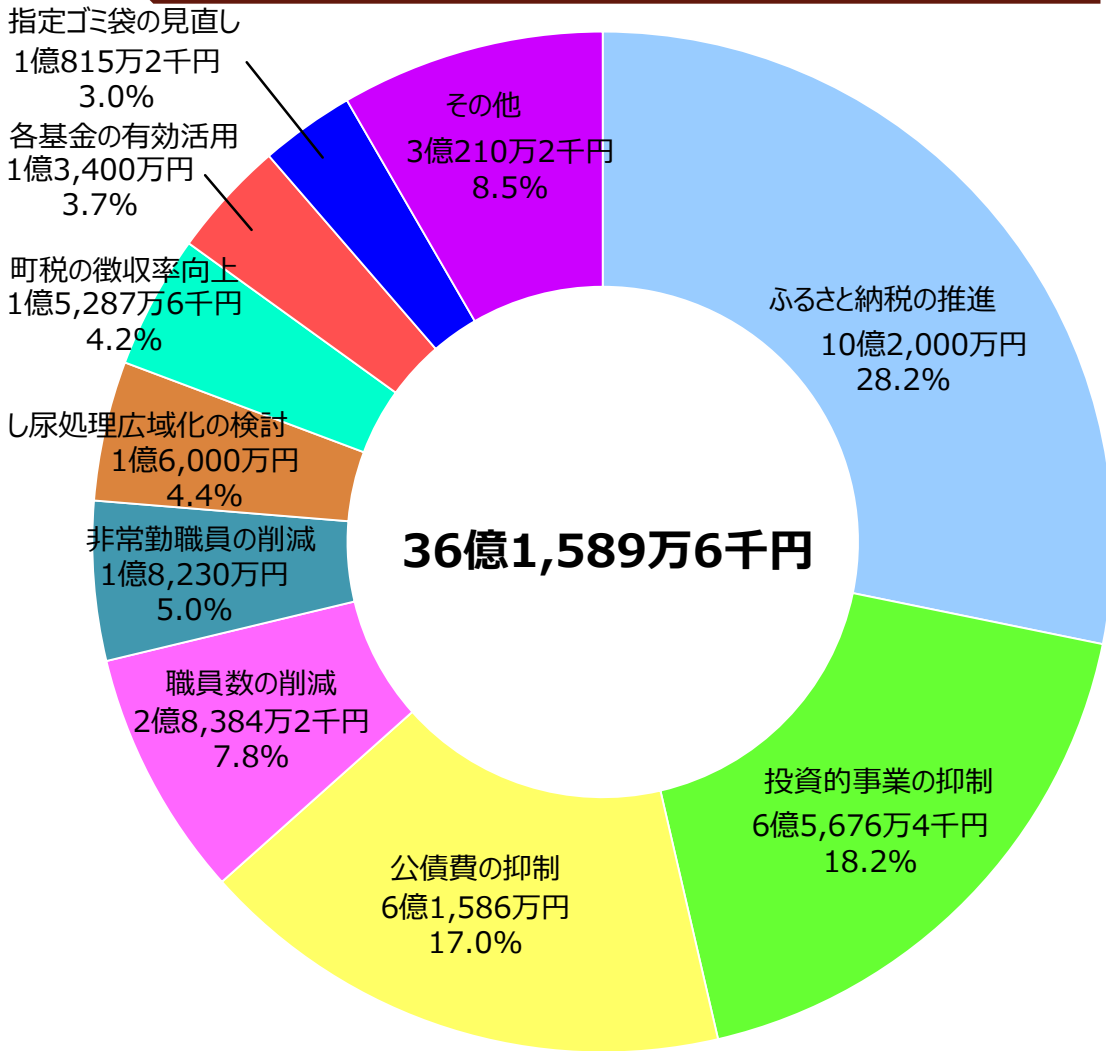
※類似団体についてはH29まで

Point

- 平成30年度においては、平成24年度以来6年ぶりに財源調整に使う財政調整基金、公共施設整備基金、減債基金の3基金からの繰入（取り崩し）をせずに実質収支の黒字が達成できました。
- 平成30年度末における町債残高は約86億円ありますが、そのうち元利償還金が後年度の地方交付税に算入される臨時財政対策債が約56億円となっています。また、基金残高も約73億円あることから、当面の財政運営については支障がないと考えています。
- しかしながら、近年は基金の繰入により実質収支の黒字を維持している状況であり、今後は少子高齢化や公共施設の老朽化の進行に伴い、歳入・歳出の両面で厳しい環境になっていくことが想定されることから、継続して行財政改革を進めていく必要があります。

11 第3次行財政構造改革プラン【目標】

総目標効果額（平成30年度～令和4年度）



第3次行財政構造改革プランとは



町では、近年の少子高齢化の進行や人口減少社会に対応した、持続可能かつ、身の丈に合った行財政運営を実現していくことを目指し、「行政改革審議会」での慎重な審議や、その素案に対する住民のみなさんからの意見募集を経て、平成29年12月に「第3次行財政構造改革プラン」を、平成30年3月に「アクションプログラム」を策定しました。

今後は、「第3次行財政構造改革プラン」及び「アクションプログラム」の各改革項目の適切な進捗管理に努めるとともに、働き方改革などの社会経済状況や地方財政状況の変化を的確に捉え、取組の効果が不十分と判断される場合は、適切な取組を随時追加することにより、さらなる行財政改革の推進に取り組んでいきます。

※プラン及びアクションプログラムは、役場、図書館、町ホームページでご覧いただけます。

第3次行財政構造改革プラン【平成30年度実績】

■ 各改革項目の取り組みによる効果額 ※特定財源を除いた一般財源ベース

| 年 度 | 目標効果額 (A) | 実績効果額 (B) | 目標額と実績額との差額 (B) - (A) |
|--------|-----------|------------|-----------------------|
| 平成30年度 | 5億3,123万円 | 38億6,126万円 | 33億3,003万円 |

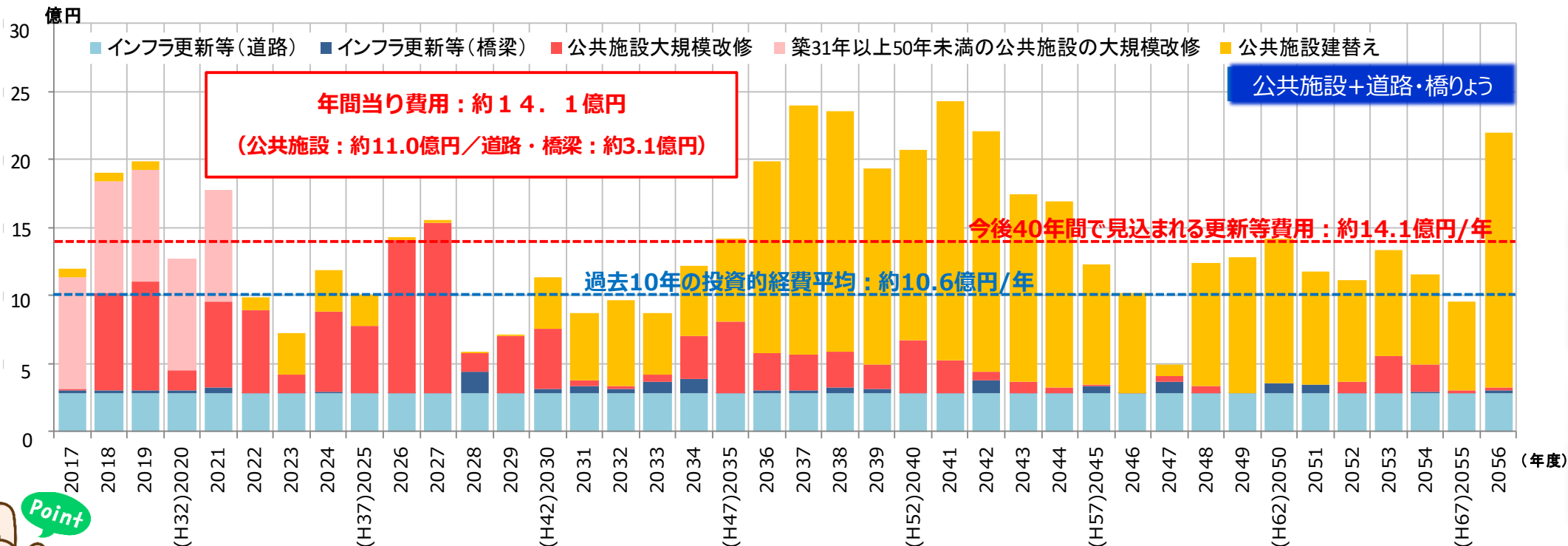
■ 実績効果額が500万円以上の取り組みとその効果額

| 改革項目 | 目標効果額 | 実績効果額 |
|----------------------|-----------|-----------|
| 基幹系システムにおけるクラウドの導入等 | 558万円 | 558万円 |
| 投資的事業の抑制 | 1億6,140万円 | 1億5,148万円 |
| 資本費平準化債の増額発行【公営企業会計】 | 1,000万円 | 1,000万円 |
| 業務の見直しによる非正規職員の削減 | 1,846万円 | 3,604万円 |
| 各基金の有効活用 | — | 8,272万円 |
| 町税、保険料等の徴収率向上（町税） | 991万円 | 6,112万円 |
| ふるさと納税の推進 | 2億400万円 | 34億277万円 |
| 職員数の削減 | 3,639万円 | 4,367万円 |
| 公債費の抑制 | 6,900万円 | 6,363万円 |

これらの取り組みにより、平成30年度は目標効果額を大きく上回ることができたよ。



12 公共施設等の老朽化対策



Point

普通会計の対象となる公共施設と道路・橋梁について、今後も同規模に維持し続けるものとして、中長期的に必要な更新等の概算費用を算出すると、今後40年間の費用総額として最低でも約562億円、**年間あたりの費用**で見ると、**約14.1億円**の費用が見込まれます。これに対して、過去10年間の**投資的経費の平均**を見ると年間**約10.6億円**であり、投資的経費を全て更新等の費用に充当すると仮定した場合、公共施設等の更新等に必要な費用については、**約3.5億円超過**することとなります。

これまでの投資的経費の水準を上回る規模の財政支出が見込まれる中、人口動向や財政状況等を踏まえつつ、更新や改修等の対象とすべき施設の取捨選択の検討を進めるなど、「量」と「質」の両面から公共施設等の最適化を進めていく必要があります。

持続可能な財政運営に向けた対応

「熊取町公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設等の老朽化対策に取り組んでいるよ！



⇒「熊取町公共施設等総合管理計画」HPはこちら

13 課題と取り組み（まとめ）

■ 課 題

- 今後、歳入面では、生産年齢人口の減少や地価の下落等に伴い、町税の増加が見込めない状況です。
- 歳出面では、少子高齢化の進行に伴い、社会保障関連経費や医療費助成等の扶助費、医療特別会計への繰出金等の増加が見込まれます。
- 公共施設の老朽化が進んでおり、南海トラフ地震への備えも必要なことから、大規模改修や建替えなどの課題を抱えています。

■ 取り組み

- 持続可能な行財政運営を実現するため、平成30年度から令和4年度まで「第3次行財政構造改革プラン」により、民間委託の推進、公共施設の統廃合や維持管理経費の削減、業務の効率化などに向けた取り組みをおこなっています。
- 大規模災害への迅速かつ機動的な対応を可能とするため、令和元年度に「くまとりふるさと応援基金」10億円を原資とする「くまとり防災基金」を創設しました。

■ 皆さまへ

このように熊取町は様々な課題を抱えています。そこで住民の皆様にも次のようにご協力をお願いします。

- 食品ロスの削減やリサイクルの活用などによる、ごみの削減にご協力をお願いします。
- 災害に備えて、家の安全対策や災害時にどのように行動したらよいかの確認、水や食料などの備蓄を進めていただきますようお願いいたします。
- 町税や国民健康保険料等の納期内納付をお願いします。



ご協力よろしくお願いします！

